

令和3年度 兵庫県立吉川高等学校 学校評価報告書

兵庫県立吉川高等学校学校評価委員会

1 学校教育目標

<p>基本方針</p> <p>(1) 校訓「能力の開発善用」を基盤として、知・徳・体の調和した発達を図り、個性の伸長とところ豊かな人間性を培い、社会に貢献しうる人材を育成する。</p> <p>(2) 日々の教育活動を通じて「自律心」と「行動力」を育み、知・徳・体の調和のとれた自立する人間として、自らの夢や希望を実現できる人材を育成する。</p> <p>教育目標</p> <p>(1) 生命や人権を大切にし、互いを思いやる心を育む。</p> <p>(2) 学力の向上と個性の伸長を目指す。</p> <p>(3) 自主的・自立的な生活習慣を確立し、確かな人間性と社会性を培う。</p> <p>教育方針（目指す学校像・生徒像・教師像）</p> <p>(1) 目指す学校像：生徒と教師がともに自己の成長を日々実感できる学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが輝くことができる学校 ・ところ豊かな生徒を育てる学校 ・地域に愛される開かれた学校 ・入学してよかった、卒業してよかったと思われる学校 <p>(2) 目指す生徒像：自ら立てた志を得るために自律心と行動力をもって取り組む自立した生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失敗を恐れず積極的にチャレンジできる生徒 ・自分も、他人も大切にできる人権意識の高い生徒 ・積極的に、学校や地域社会に貢献しようとする生徒 ・将来を見据えて、学力向上ならびに進路意識の向上に取り組む生徒 <p>(3) 目指す教師像：確固たる自律心に根ざした自立的な生き方を体現する生徒を育てる教師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・謙虚さを失わず、向上心を持って学び続ける教師 ・生徒とともに歩み、寄り添い、夢や志を育む教師 ・学び甲斐、働き甲斐のある学校づくりに貢献できる教師 ・「教育のプロ」を自覚し、生徒や保護者、地域の方から信頼される教師
--

3 学校の評価方法について

<p>・教員とPTA役員の方々に同様のアンケートを実施し、教員アンケート結果とPTA役員アンケート結果の比較から顕著なものについて記述する。アンケート内容を変更させないことにより経年比較が可能となっている。</p> <p>・段階評価と記述評価によって評価結果がわかりやすさと具体性が両立している。</p>
--

2 本年度の重点目標

<p>(1) 学ぶ力・確かな学力の定着</p> <p>(2) 学校行事・特別活動・部活動の活性化</p> <p>(3) 生徒理解を基礎とした生徒支援の充実</p> <p>(4) 心のサポートシステム等を活用した生徒支援の取り組み</p> <p>(5) 人権教育の推進</p> <p>(6) 情報教育（ICT活用）の充実</p> <p>(7) 地域との連携事業の取り組み</p> <p>(8) 学校ホームページ・学校案内・学年通信等の充実</p> <p>(9) 震災の教訓を生かし、防災教育・安全教育の推進に努める</p> <p>(10) 教職員集団の育成</p>

5 学校自己評価（記述評価）

<p>・コロナ禍の中ではあるが、幼・小・中との連携事業も含め、地域から期待される学校として、地域行事や体験活動・ボランティア活動をととして生徒の自尊感情・自己効力感を醸成させ、地域に貢献できる人材の育成に尽力したい。</p> <p>・わかる授業、魅力ある授業づくりに向けて、授業改善、教材の工夫、ICT機器の活用を進め、生徒が受身ではなく主体的に学習に取り組めるようにしていきたい。</p> <p>・「心のサポートシステム」の実践・研究指定校として、いじめの未然防止や生徒のクラスでの居場所づくりを進めるため、Q UやCoCoLo-34アンケートの活用や職員研修会を実施した。職員研修を通して、教員自身がクラスの状況や生徒の現状を把握し具体的な対応策を考え、生徒理解・指導に活用できるよう継続して進めていきたい。</p> <p>・支援を必要とする生徒が増えてきている中で、校内における特別支援教育の体制の構築に向けて研究や研修を通して、支援体制の充実を今後も継続していきたい。</p>
--

4 学校自己評価（段階評価）（3段階評価 A：満足できる（平均2.3以上） B：やや満足（平均2.0以上） 2点 C：満足できない（平均2.0未満））

領域	評価の観点	達成状況	改善の方策	
1 学力・行動力・発信力を伸ばす指導	◆学ぶ力・確かな学力の定着			
	1	わかる授業、魅力ある授業を実践し「学び直し」指導を充実させる	2.18 B	考查前の自学自習指導を継続して実施していく。
	2	多様な進路の実現に向け、個に応じたきめ細かな学習指導を行う。	2.35 A	進路指導についての職員研修の充実を図り、学校全体として学習指導方法を確立し実施する。
	3	大学進学希望者に対応した学力向上策に取り組む。	1.65 C	進路指導部を中心に、学年との情報交換を密にし、年間を通じた計画的できめ細かな指導を充実していく。
	◆学校行事・特別活動・部活動の活性化			
	4	部活動の意義や目的を正しく理解し、「体罰」のない、個に応じた指導にあたる。	2.47 A	現行通り、生徒主体の部活動を継続して行う。
	5	達成感、自尊心や自律性の育成に向けて、生徒の活動をサポートする。	2.12 B	生徒主体となる体験活動を数多く準備し、できるだけたくさんの生徒が参加できるように計画を行う。
	6	充実した部活動・生徒会等の活動、ボランティア活動で生きる力の育成を目指す。	1.76 C	生徒の主体性を育む活動を企画し、運営についても全生徒が関わられるように工夫する。
2 生徒の内面を育む生徒指導	◆情報教育の充実			
	7	情報通信技術を効果的に活用して、学びの工夫と学校の特色づくりを行う。	2.00 B	特色類型の充実を図るとともに、全生徒がプレゼンテーションをできる機会づくりを積極的に行う。
	8	情報通信技術を効果的に活用した、わかりやすく深まる授業の実現を図る。	1.94 C	各教員が、個々のICT活用スキルを高め、タブレット等を積極的に活用し、授業の工夫を図る。
	◆学校、家庭、地域と連携した生徒指導の充実			
	9	命の大切さ、ものごとの善悪、生きることの意義などを理解させ、「体罰」のない、指導の徹底を図る。	2.53 A	生徒支援・指導部や保健体育科を中心に、職員研修や講演会を実施すると同時に職員の共通理解を図る。
	10	生徒個々の内面理解を図り、家庭、地域との連携を構築し、全教職員が一体となって生徒指導に取り組む	2.18 B	「心のサポートシステム」研究開発を柱とした生徒理解、生徒支援を行い、定期的な振り返りと改善を行う。
	◆心のサポートシステムや特別支援委員会を活用した生徒支援の取組			
	11	教育相談体制の充実に取り組み、中途退学を防止する。	2.06 B	キャンパスカウンセラーとの連携を充実させ、学業面と生活面の両面で支援が必要な生徒を全職員が把握する。
12	不登校生徒の支援等、居場所作りを重点的にを行い、有意義な学校生活を送れるようサポートする。	1.94 C	「QU」や「Cocolo-34」を基にした職員研修の充実を図り、生徒の現状を理解し、積極的に生徒に関わっていく。	
3 地域との積極的な連携と	13	学校の教育活動において、他者に関わる機会を増やし、コミュニケーション能力の育成に取り組む。	2.06 B	生徒・職員が学校内外における体験活動に参加する機会を生かし、新しい視点・観点を学校に採り入れていく。
	◆人権教育の推進			
	14	生命や人権を守る教育指導の充実を図り、「いじめ」を許さない学校づくりに努める。	2.29 B	人権ホームルームの質の向上のための研修、指導案、教材の充実を図っていく。
	15	あらゆる教育活動を通じて、他人を思いやることのできる感性豊かな情操を育てる。	2.24 B	講演会を聴くだけでなく、生徒同士がお互いに話し合う場づくりを行い、他者理解を深める。
	◆震災の教訓を生かし、防災教育・安全教育の推進に努める。			
	16	阪神・淡路大震災による災害等の教訓を生かし、語り継ぐ兵庫の防災教育の推進と、非常事態でも冷静沈着に対応できる生徒を育成する。	1.76 C	震災の記憶を風化させないよう、映像や体験談をととして震災教育を継続させていく
	◆地域との連携事業の積極的な取組			
	17	幼・小・中・高・大の連携を充実させ、積極的な交流を図る。	2.56 A	成果向上のために、互いの立場を理解し、各学校との事前の打ち合わせを充実させる。
18	ボランティア活動、高校生ふるさと貢献活動事業等の活動を通して、豊かな人間性を育む。	2.19 B	ボランティア活動の大切さとその意義を理解させ、全生徒が年に1回以上参加できる体制を整える。	
19	インターンシップを通して、社会や職業の現実を見つめさせ、進路についての確かな意識を育てる。	1.47 C	本年度はコロナ禍の為中止となったが、2年生全員が参加する本校の特色ある取組であり、本年度は実施する。	
◆ホームページ、学校案内、学校・学年便り等の充実				
20	積極的な情報発信・広報活動を通じて、充実した学校生活を送っている生徒の姿を理解していただき、学校への信頼感を醸成する。	2.19 B	学校ホームページやマ・メールによる連絡体制や、「みなぎの通信」による情報発信の活性化を継続する。	

6 評価分析

<p>【段階評価より】</p> <p>・評価項目1番、2番、9番、10番、17番、18番、20番において、昨年より評価が向上している。特に、9番、10番、17番は、昨年度より大きく評価が向上している。9番、10番については、指導にあたり、学校と家庭を密にとり、連携を図ることができた結果であると考えられる。また、17番については、小学校との連携授業では、コロナ対応として、オンラインにより工夫をして行い、小学校からも高評価を得た結果であると考えられる。</p> <p>・評価項目6番、8番、12番、13番、14番、19番において、昨年の評価から低下している。6番については、コロナ禍の中で、地域に出向いての活動が制約されたことが大きいと考えられる。12番、13番については、様々な事情で転退学者があり、今後、さらに生徒支援の体制を充実させる必要があるとの認識が反映したものと考えられる。</p>
<p>【PTAアンケートより】</p> <p>・私たちが気にしていないような小さな出来事まで細かく報告していただき、うれしく思っている。それだけ生徒一人ひとりのことを真剣に見ていただき、注意を払っていただき、ありがたく思っている</p> <p>⇒お褒めの言葉を励みに、今後もしっかりと指導していく。</p> <p>・テスト期間中、バスの待ち時間があまりにも長いので、図書室や空き教室も一部開放し、生徒達の居場所を用意してほしい。</p> <p>⇒管理上の問題もあるが、できる限り対応をしている。保護者に伝わっていない部分もあるので、理解を求めたい。</p>